

メインフォーラム ③「市民が提案し、市長と一緒に天理のエコを考える」

日時 2018年11月18日(日) 10時~12時

場所 天理市文化センター

この「メインフォーラム」は、11月16日から開催した「環境展」や、同月23日(祝)に実施した「落葉かき」などとともに、「天理環境フォーラム2018」の一環として開催した。

このフォーラムでは、「私が考える『エコシティ・天理』」をテーマに、高校生2名、大学生2名、一般社会人1名の計5名による提言があった。日頃から思い描く天理市のエコ化・エコシティ化について発表していただいた。この提案は、コンテスト形式を採用し、提案内容が具体的で最も秀でた内容に対しては「市長賞」を授与した。

審査委員長は並河健天理市長だったが、残念ながら当日は公務多忙のため審査に間に合わず、急遽、ほかの審査委員で審議した。

選考基準については、高校生、大学生、一般社会人という年齢差・経験差を考慮せず、提案内容の斬新さ、ユニークさを重要な視点として選考した。

提案された5編の概要は以下のとおりだった。

(1) 高校生：「水と緑のエコ・シティ天理」

天理市内のイチヨウ並木は、以前は一般のポスターで紹介されるほど美しく見栄えがあった。また布留川のゲンジボタルも、かつて「三島名産」といわれるほど有名だった。今日、街路樹やゲンジボタルの調査をするなかで三つの課題を見出した。それは大量に出る落葉の処理、巨木化した街路樹の更新、街灯によるホテルへの影響についてだった。そして解決策を四つ提案した。具体的には落葉の堆肥化、巨木化した街路樹の萌芽更新、照明光を川面に当てない、水と緑のネットワーク化の推進と発信だった。これらの解決策をイラスト入りで提案した。

(2) 高校生：「エコマネーでつながるエコシティ天理」

天理市は、柿やイチゴ、ミカンなど果実の生産量は県内でもトップレベルだが、後継者不足と耕作放棄地の増加が続き、景観にも影響を及ぼしている。そこで提案したのは、天理市内には小学生から大学生までの若者が集まっていることから、地域通貨「エコマネー」を発行して若者らによるボランティア活動を促し進めてはどうか。たとえば地域清掃活動や農業支援活動をおこなった人に対して、その対価として「エコマネー」を渡し、協賛してもらった事業者のお店などで利用してもらおう、という考え方である。そして、「助け合いのまちづくり」が二次的効果として出現すると提案した。

(3) 大学生：「私が考えるエコシティ」

農業就業者に焦点をあて、就業者人口の減少、後継者不足、高齢化、就業時間、収入額、また耕作放棄地の増加、さらに安価で購入できる外国産農産物などの現状を説明し、それらについての課題、たとえば農業従事者を増やすには、耕作放棄地を有効利用するには、地産地消を促進するにはどうすべきかについて言及した。そして解決策として、農業従事者へのバックアップ体制や学校教育での「農業教育プログラム」の採用、また就学者と農業従事者との協働農作業の充実、さらに“青空市場”のような一般消費者向けの新鮮な農産物マーケットの拡充などの必要性を提案した。


天理環境フォーラム2018
~ 私が考える「エコ・シティ 天理」 ~

メインフォーラム

市民が提案し 市長と一緒に天理のエコを考える

日時 : 平成30年11月18日(日)
午前10時~12時

場所 : 天理市文化センター 3階文化ホール



主催 : 「天理環境フォーラム2018」実行委員会

(4) 大学生：「天理市でできる SDGs 活動」

国連加盟国で決めた世界平和に向けた持続可能な開発目標「SDGs」を、天理市内で活かしてはどうか、という内容だった。2015年に国連で採択され、「誰一人取り残さない」というスローガンのもと、17個の目標と169個のターゲットが設定されたSDGs。日本のSDGs達成率をさらに上げていくためにはSDGsを経営へ統合していくことが重要とし、企業だけでなく学生や市民にとっても重要な課題だと考えた。そこで、SDGsの勉強会を始め、天理でできるSDGs活動としては、カンボジアなどの途上国に井戸を設置する、学生からゴミ拾いや地域見守り隊などを組織する、そして情報格差のない勉強会、セミナーなどを企画するなどがあることを提案した。

(5) 一般社会人：「私が考える『エコシティ・天理』」

「エコシティ・天理」のイメージとして、「自然環境と調和して、安全・安心・快適に生活でき、かつ低炭素社会を目指す天理」を挙げることができる。たとえば、子供たちが自然環境の中で生き生きとのびのびと学校生活や家庭生活を送れるためには、市内の小・中学校の全校に再生可能エネルギーによる冷房・温暖の空調設備を設置する。市内の神社、寺、古墳を整備し、子供たちが自由に遊び、歴史に触れあえる歴史公園を整備する。自然豊かな里山で動植物と触れあえる里山公園を整備する。食の安全と共に地産地消やごみの減量化を図る。さらには、エネルギーの無駄をなくした低炭素社会を構築する。それは、具体的に小水力発電やバイオマス発電、エコバッグや風呂敷の利用、レンタサイクル、カーシェアリングなどの活用であると考え、提案した。

以上、5つの提案に対して、審査委員会は、それぞれしっかりとした内容とプレゼンテーションだったという前提の中で、オリジナリティある提案として「市長賞」に推薦したのは、(2) 高校生：「エコマネーでつながるエコシティ・天理」だった。

評価のポイントは、地域通貨券として「エコマネー」を発行し、地域の清掃活動や農業支援活動をおこなう人に対して、その対価として「エコマネー」を与える制度はユニークであり、天理市内でもシステム化が可能である点(右図)。それが結果的に「助け合いのまちづくり」に発展していく可能性がある点。そして農業と企業、学校と行政などが有機的に繋がるエコ社会の実現に向けた可能性を秘めている点などが、大きな評価だと判断した。

